



内装に秋田の伝統工芸を取り入れたご当地レンタカー

秋田市の「ドラゲーン」

秋田市八橋の中古車販売「ラビット秋田臨海店」の運営会社ドラゲーン(鎌田学社長)は、内装に川連塗や樺細工などを取り入れた「ご当地レンタカー」を製作した。観光客らの利用を促し、本県の伝統工芸をPRする狙い。レンタル開始は来年4月を見込んでいる。

乗った瞬間 秋田感じて 内装に川連塗、樺細工…

「ご当地レンタカー」完成

同社は10月、県内で観光客の交通手段として利用が増えているレンタカー事業に参入。他社にない特徴を打ち出し、観光客に選ばれる車両を模索する中で、今回のレンタカーを思い付いた。

運転席の前のダッシュボードには朱色の川連塗を施したほか、ヘッドレストには本県独自の絹織物・秋田八丈のカバーを付けた。ハンドルの一部には桜の模様が入った樺細工もあしらわれている。

内装に用いた伝統工芸の歴史や、商品をごで買えるのかを紹介したリーフレットも製作し、車内に設置する予定。秋田杉の香りがする芳香剤を置くことや、銀線細工の装飾なども検討中だ。

ベース車両に中古車を使い、仕入れ原価を抑えることで、車内の装飾費を捻出した。レンタル料金は大手レンタカー



川連塗が施されたダッシュボード部分

ングした。イベントでの展示や旅行サイトでの広告などに使うことにしている。

来春のレンタル開始までに、外装を抑えた車両を含め

て最低でも3台を準備したい考え。ご当地レンタカーの利用者の限定サービスとして、なまはげの格好をした同社従業員による出迎えや、ホテルや旅館に車両を届けることも検討している。

(千葉園子)

1会社と同程度の1日5千〜6千円を想定している。鎌田社長は「伝統工芸の魅力を生かし、乗った瞬間に秋田を感じられる一台になった。県外から重要なお客さまを迎える時に使いたいという企業からの問い合わせもある」と話す。

完成した現在の車両は、主にPRカーとしての利用を想定し、外装に県のPRキャラクター「んだッチ」をラッピ